中島敦

のの二年秋九月、・は五千をい、をして北へった。のがにせんとするのたるをってすること三十日。はをいて寒く、にもるの感が深い。・のにってはくした。にのに深く進み入っているのである。秋とはいってものこととて、もれ、やの葉も落ちつくしている。木の葉どころか、木そのものさえ（地のをいては）、に見つからないの・と岩とと、水のいとのたるであった。を見ず、にれるものとてはに水を求めるぐらいのものである。とをるの上を高くのが南へ急ぐのを見ても、しかし、としていのなどにられるものはない。それに、のはまるものだったのである。

－26－

ち